

2023年度

事業計画書

公益財団法人 NHK交響楽団

— 目次 —

はじめに	3
1. “N響ならではの” の公演でお客様の満足度を高める	4
(1) 定期公演の充実とサービスの向上	4
(2) 音楽文化の向上と地域に貢献する公演	6
<特別公演>	7
<地方公演>	8
<契約公演>	8
2. 若者や子どもたちとつながりファン層を広げる	8
(1) 新しいファン層への積極的なアピール	8
(2) デジタル発信の充実	9
(3) 子どもたちの興味をひく取り組み	9
(4) N響100年プロジェクト	10
3. 社会、放送に貢献しN響の存在感を示す	10
(1) NHK財団と連携した社会貢献	10
(2) 次世代の未来を育む活動	11
(3) 福祉、被災地を応援する活動	11
(4) 放送への貢献	11
(5) N響アカデミー	12
(6) 寄付への理解促進　—リハーサル公開—	12
4. 国際発信力を高め海外にファンを広げる	12
(1) 外国人旅行者、留学生に向けた取り組み	12
(2) 国際発信の強化	13
5. ガバナンスの強化と経営基盤の安定化	13
(1) NHK財団と連携したマネジメントの高度化	13
(2) テレワーク環境の整備と情報セキュリティの推進	14
(3) 効率的な業務運営と安全の確保	14

はじめに

世界各地で国家間の対立や分断が激しさを増しています。音楽には、国境を超えて人と人とを結びつける力があり、今こそオーケストラはその役割を果たすべきときと信じています。

1927年に始まったN響の定期公演は、今年12月、2000回を迎えます。記念公演では、ファンの皆さまに投票で選んでいただいた「マーラー《一千人の交響曲》」に取り組むのをはじめ、新シーズンもN響ならではの豪華な指揮者やソリストを迎えて、日本最高水準の演奏をお届けします。

全国各地の皆さまにクラシック音楽の魅力と感動をお伝えすべく、地域での演奏会や楽員が小中学校を回って本物の音楽の楽しさを知ってもらう出前授業「NHKこども音楽クラブ」、被災地復興支援のミニコンサートを行うなど、地域貢献活動にも一層力を入れていきます。

クラシック音楽文化を次の世代に伝えていくこともN響の重要な使命です。終演後のカーテンコールの写真撮影解禁に続いて、今年度は、団体で来場する学生の皆さんをバックステージツアーにご案内したり、動画配信を増強したりするなど、若い世代の方々にもっと会場に来ていただくためのサービスの充実に取り組みます。

N響は、2023年4月、新しく誕生するNHK財団と経営統合します。双方のノウハウを結集し効率的な運営を進めながら、新しい教育プログラムを開発するなどNHKグループとしての社会貢献活動を一段と強化します。

2026年創立100年に向けて、N響は伝統を守りつつ時代の変化にしなやかに対応しながら、皆さまの人生に彩りをお届けし親しまれるオーケストラを目指して進化して参ります。

1. “N響ならではの”の公演でお客様の満足度を高める

(1) 定期公演の充実とサービスの向上

2022年11月、イギリスの権威ある音楽誌「BBCミュージックマガジン」が発表した世界のオーケストラトップ21に、日本では唯一当団が選ばれた。2023年度もN響だからこそ出来る最高水準の演奏を追求し、多彩なプログラムを通じて存在感を示すとともにお客様の満足度を向上させる。

① 内外の著名な音楽家との共演

就任2年目となる首席指揮者ファビオ・ルイーダや95歳を過ぎてなお世界の一流で活躍する桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロンシュテットらとの共演に加え、気鋭の日本人奏者や当団所属のトッププレーヤーなどをソリストに迎える。特別公演と合わせ、内外の著名な音楽家をバランスよく配置しファンの期待に応える。

② メモリアルな公演

1927年に定期公演が始まって2000回目にあたる公演（2023年12月）は、ファン投票で選ばれたマーラーの大曲を合唱付きで演奏する。また、引退する日本の代表的指揮者、井上道義との最後の定期公演（2024年2月）も合唱を交えたスペシャルなステージとして盛り上げる。

③ 3プログラムの特色の定着

本格的な演目を一流のソリストの演奏とともにたっぷりと味わったいただくAプログラム、豪華な雰囲気と繊細な響きをサントリーホールで贅沢に味わっていただくBプログラム、1時間程度のコンパクトな公演と比較的廉価な料金、それに開演前の室内楽のサービスを加え「お得感」と「気軽さ」を打ち出したCプログラムなど、3種類のプログラムの特色を定着させる。

④ ステージ撮影等の来場者サービス

2022年度に他に先駆けて解禁した演奏終了後の客席からのカーテンコール撮影は好評のうちに業界に普及しており、継続する。N響関連グッズや撮影用の指揮者の等身大パネルなど、お客さまの来場記念のサービスもさらに充実させる。

⑤ チケット購入の利便性

チケット販売会社と業務提携し券売システムを刷新する。2023年度は、25歳以下の方の割引サービス「ユースチケット」の登録者がWEBでもチケットを購入できるようにする。また、すでに導入している携帯端末を活用した電子チケットについてはさらに普及を目指す。

⑥ WEBアンケート

お客さまの声を公演やサービスにいかすため、プログラムなどに印刷したQRコードを活用したWEBアンケートを継続する。一部の公演では、回答率をさらに高めるための取り組みも行い、お客さまの満足度向上に役立てる。

【演奏計画】

○ 2022—23定期公演（4月～6月）

Aプログラム：NHKホールで3プログラム6公演

Bプログラム：サントリーホールで3プログラム6公演

Cプログラム：NHKホールで3プログラム6公演

合計9プログラム、18公演

○ 2023—24定期公演（9月～翌年2月）

Aプログラム：NHKホールで6プログラム12公演

Bプログラム：サントリーホールで6プログラム12公演

Cプログラム：NHKホールで6プログラム12公演

合計18プログラム、36公演

<4月>

名誉指揮者パーヴォ・ヤルヴィが登場。AプロはR. シュトラウスの大曲《アルプス交響曲》。Cプロではイベールやプーランクといった瀟洒なフランス音楽を、コンパクトな編成でお届けする。Bプロはヤルヴィが得意とするロシア・北欧のドラマティックな作品。

<5月>

Aプロは現代音楽とドヴォルザークの美しいメロディを組み合わせた下野竜也らしいプログラム。首席指揮者のルイージはCプロで近代フランスの名曲、Bプロでハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンというウィーン古典派の3大作曲家を取り上げる。

<6月>

人気指揮者ジャンドレア・ノセダが5年ぶりに登場。母国イタリアのカゼッラをAプロで、レスピーギをBプロで披露する。Cプロのショスタコーヴィチ《交響曲第8番》など、ゆかりの深いロシア音楽を全プログラムに取り入れたのも特徴的である。

<9月>

首席指揮者として2シーズン目を迎えるファビオ・ルイージが、Aプロで得意のR. シュトラウスを指揮。特に《イタリアにて》は彼が愛してやまないレパートリー。

Cプロではワーグナー《ニーベルングの指環》の管弦楽用編曲版を送る。Bプロのトン・コープマンはオール・モーツァルト・プログラム。フルート首席の神田寛明をソロに迎える。

<10月>

96歳となる桂冠名誉指揮者ヘルベルト・ブロムシュテットがすべてのプログラムを指揮。Aプロは80分超の大曲、ブルックナー《交響曲第5番》。Bプロは中心レパートリーであるベートーヴェンとブラームス。Cプロは巨匠のルーツである北欧の名曲。

<11月>

Aプロは大御所フェドセーエフによるロシアの華やかなオペラ・バレエ音楽。Bプロはフィンランドのサラステが指揮するシベリウス。CプロはN響初登場のマダラシュによるハンガリーの名曲。ベテランから若手まで三者三様の指揮者が、祖国の傑作に取り組む。

<12月>

記念すべき第2000回定期となるAプロは、ファン投票で選曲したマーラー《千人の交響曲》。ルイージの推薦による錚々たる歌手が集結する。Bプロでは人気のアリス・紗良・オットを迎えたリストの協奏曲や、生誕150年となるレーガーの傑作を送る。Cプロのメインはルイージ得意の《幻想交響曲》。

2024年

<1月>

世界的にますます評価を高めているトゥガン・ソヒエフによる3プログラム。Aプロでは、昨シーズン好評だったラヴェルを再び取り上げる。オーソドックスな古典派のBプロには、N響が誇る首席奏者がソリストとして登場。Cプロはソヒエフ自らが選んだバレエ組曲《ロメオとジュリエット》の抜粋版。

<2月>

Aプロは引退を表明した井上道義による最後のN響定期。ライフワークであるショスタコーヴィチの傑作《バビ・ヤール》を指揮する。Bプロのパブロ・エラス・カサドは祖国スペインにちなんだ名曲を、Cプロの大植英次はドイツ後期ロマン派の傑作に挑む。

(2) 音楽文化の向上と地域に貢献する公演

定期公演以外にも、音楽文化の創造、発展に寄与し、地方都市での公演を通じて良質な音楽を全国の隅々までお届けする。また、幅広い世代にクラシック音楽に親しんでもらうための公演に力を入れる。

<特別公演>

① 青のオーケストラ

2023年4月からNHKEテレで放送されるアニメ「青のオーケストラ」と連動した演奏会。アニメはクラシック音楽を題材とした青春群像ドラマで、主人公の演奏吹き替えを担当するソリストや声優も登場。アニメに描かれるクラシックの名曲を生演奏で届ける。

(5月7日 東京芸術劇場)

② Music Tomorrow 2023

優れた現代音楽作品を取り上げて、新たな音楽文化の創造に寄与することを目的とした演奏会。今年はライアン・ウィグルスワースの指揮で、第70回尾高賞を受賞した藤倉大の「尺八協奏曲」と一柳慧の「ヴァイオリンと三味線のための二重協奏曲」、当団が共同委嘱に加わったスルンカの「スーパーオーガニズム」を送る。

(6月27日 東京オペラシティ・コンサートホール)

③ N響「夏」2023

クラシック音楽のファン層の拡大を目的に、熊倉優の指揮、北村朋幹のピアノでモーツァルト《ピアノ協奏曲第24番》、シューマン《交響曲第3番「ライン」》など、親しみやすい名曲を届ける。

(7月21日 NHKホール)

④ 松山公演

愛媛県内の多くの企業に協賛をいただいて毎年行っている。出演者・プログラムは③に準じる。

(7月23日 松山市民会館)

⑤ N響ウェルカム・コンサート

2023-24シーズン・プログラムの聴きどころを、熊倉優の指揮で分かりやすく紹介する。従来の定期会員はもちろん、新たなファンにも興味を持ってもらう。

(8月3日 NHKホール)

⑥ N響ほっとコンサート

夏休みにファミリー向けに行う演奏会。今年は三ツ橋敬子が指揮台に立ち、会場も巻き込んだ楽しいコンサートとする。

(8月6日 NHKホール)

⑦ N響名曲コンサート2023

下野竜也の指揮によるドヴォルザーク《交響曲第8番》など、クラシックの名曲を楽しんでもらうコンサート。期待の若手ピアニスト、小林海都をソリストに迎える。

(9月28日 サントリーホール)

- ⑧ ベートーヴェン「第九」演奏会
年末恒例のベートーヴェン《交響曲第9番》。今回は下野竜也が指揮台に立つ。
(12月22, 23, 24日 NHKホール)
(12月27日 サントリーホール)

- ⑨ 大河ドラマコンサート
NHK大河ドラマ60年の節目にあたり、テーマ曲を手掛けてきた“N響ならではの”のコンサート。最新の「どうする家康」や往年の名作のテーマ、「大河」をキーワードにしたスメタナの《モルダウ》ほかクラシックの名曲を送る。ソリストには「真田丸」のテーマを演奏したヴァイオリニスト三浦文彰を迎える。
(2024年3月9日 東京芸術劇場)

<地方公演>

- ① NHK各放送局との共催により全国各地で実施する公演
2023年度は静岡、帯広、旭川、札幌、大阪、松本、新潟の合計7都市で、N響の迫力ある演奏を楽しんでもらう。
- ② NHK音楽祭
ロシアの巨匠フェドセーエフを迎え、チャイコフスキー3大バレエの一つ、《くみ割り人形》全曲をお送りする。
(11月20日 NHKホール)

<契約公演>

主催者の依頼により出演する公演。「東京・春・音楽祭」や「N響オーチャード定期」のように都内で行うものや、全国各地の自治体等から依頼を受けて行うものなど、合計33公演を予定している。

2. 若者や子どもたちとつながりファン層を広げる

(1) 新しいファン層への積極的なアピール

- ① 初心者でも楽しめるスペシャルコンサート
「N響ウェルカム・コンサート」は、9月に開幕する定期公演の新シーズンのラインナップを1か月早くダイジェストで紹介する。初心者でも気軽に楽しんでいただけるようMCと指揮者の解説を交えながら、それぞれの曲を代表するおなじみの旋律などをわかりやすく伝える。ウェルカム・ペアチケット(2枚1組)2,000円やユースチケット(25歳以下)500円という破格な特別料金を設定し、オーケストラに親しむきっかけづくりのコンサートとしてSNSなどを通じて積極的に周知する。

② ユースチケットの活用

25歳以下の割引サービス「ユースチケット」は、2022年度の定期公演から全券種で割引率を50%以上に拡大し、NHKホールの1回券E席を最低で800円(Cプログラム)で楽しめるようにして好評を博した。2023年度もこれを継続し、若い世代に足を運んでいただく。また、ユース登録者の1回券チケットをWEBからも購入できるようにするなど、学校の団体購入の斡旋を含めて活用の促進を図る。

③ アニメとの連携

4月から放送されるアニメ「青のオーケストラ」(Eテレ)は、高校のオーケストラ部を題材にしたコミックの番組化。クラシック音楽に関わる若者やアニメファンを中心に愛読者は多く、放送への期待も高い。すでに劇中曲の演奏などを手掛けており、今後、放送と連動したオーケストラ公演(5月、池袋・東京芸術劇場)や地域放送局と協力したミニコンサート(函館、山口他)を展開し、若い世代の多様なファンにアプローチしていく。

(2) デジタル発信の充実

① N響公式YouTubeチャンネル

デジタルツールは幅広い世代に定着し、とりわけYouTubeは若年層にアピールするための必須の手段となっている。N響公式YouTubeチャンネルは、この2年間で17本の演奏会動画を発信(2023年1月末)。登録者数は3万人を超え、20%が海外からの視聴と、国の内外への発信窓口となっている。

2023年度も引き続き、演奏会や出演者のインタビュー企画などを配信するとともに、収録や制作にあたっては、東京工科大学メディア学部とも連携し、学生の目線をいかした若者向けのコンテンツの開発も検討する。

② 多様なSNSの活用

Twitter、Facebook、Instagramは、YouTubeと並び当団の公演活動を広報する上で有力な速報ツールとなっている。演奏への反響や公演予定の変更などを迅速に周知するとともに、それぞれのSNSの機能を使いこなす若い世代に向けて多角的な広報を展開する。

(3) 子どもたちの興味をひく取り組み

① NHKこども音楽クラブ

次世代を育てる教育プログラムとしてNHKと共催し、2007年から各地の小中学校を訪ねてミニコンサートが続けている。楽員による楽器の説明や校歌の演奏などを行い、子どもたちとふれ合いながらオーケストラの魅力を紹介する。16年目となる2023年度は、新たに特別支援学校での実施も検討する。この様子は、地域放送局のニュースや番組をはじめ、NHKのホームページでも紹介される。

(2022年度の実績は11カ所)

② 「N響といっしょ！音を楽しむ！！」

就学前の幼い子どもたちに音楽を楽しんでもらうことを目的にスタートし、3年目を迎える。2023年度も港区高輪のN響の演奏所に保育園児を招き、楽員と交流する。演奏者とのふれあい体験を記憶にとどめてもらい、将来のクラシックファンのすそ野を広げる。演奏所の開放を通じて地域への貢献も果たす。

③ ゲームソフトメーカーとの連携

ゲームソフトメーカー(株式会社ポケモン)が東北地方の復興支援として行う子ども向けのキャラクターショーに室内楽のメンバーを派遣する。2022年12月に福島県浪江町の道の駅で行った初回のイベントの様子は、SNSでも広く取り上げられ、子どもたちの笑顔や当団の草の根的な活動が反響を呼んだ。2023年度も継続し、岩手県久慈市や福島県郡山市でのイベントへの参加をはじめ、子どもたちにおなじみのゲーム音楽を交えた演奏会を通じて“身近なN響”をアピールしていく。

④ 児童、生徒のバックステージツアー

ユースチケットを共同で購入していただいた小中学校や高校の団体を本番前のステージやロビーなどに案内し、普段は目にしないN響の舞台裏をお見せする。ガイド役の職員が楽器の配置やスタッフたちの役割、プログラムの特徴などを解説し、公演制作の一端に触れてもらうことでオーケストラへの理解と関心を深めてもらう。

(4) N響100年プロジェクト

当団は、3年後の2026年に創立100年を迎える。2022年度は、事務局の若手、中堅の職員を中心にしたプロジェクトチームを結成。「人生に彩りを～N響100年～」というビジョンを定め、そのコンセプトを“夏のしぶやN響祭り”など若者たちを惹き付けるキャンペーンイベントに反映させた。

2023年度は、「今後のN響はどうあるべきか」をテーマに文化人などの意見を聞きながら2026年に向けた活動のロードマップをつくる。また、記念コンサートや特別プログラム、次世代のファンを増やす方策についても楽員とともに議論を深めていく。

3. 社会、放送に貢献しN響の存在感を示す

(1) NHK財団と連携した社会貢献

2023年4月、当団は、NHKグループの4つの財団法人が合併して設立する「一般財団法人NHK財団」と法律上の親子関係を結び統合する。財団統合の目的のひとつは、多様な事業を結集し、NHKグループの社会貢献をより強固にすることである。当団は、親財団と事業連携し、演奏活動を通じて教育や福祉の分野で新たな社会貢献を創出していく。

(2) 次世代の未来を育む活動

① 教育プログラムの創出

NHK財団や全国の地域放送局と連携し、「N響と音楽体験！子どもたちのフューチャー・ラボ」と題した新しい教育プログラムの制作に取り組む。楽員たちが各地の小学校を訪問し、ワークショップ形式で子どもたちとともにひとつの音楽表現を作り上げていく。この「参加型学習法」による音楽体験教室を放送と連動させ、上半期にパイロット版を手がけて下半期に番組化を目指す。

② NPOと連携した子どもの招待

共働きや一人親世帯を支援するNPO法人、子どもたちが暮らす施設の運営団体などと連携し、子どもたちと関係者をコンサートに招待する。2022年度は、夏休みに子どもと大人がともに楽しめる「N響ほっとコンサート」に団体に招待したが、今後、さらに取り組みを広げていく。

③ アウトリーチ室内楽

自治体や財団の招きに応じ、各地の学校や小ホールなどを訪ねて室内楽を演奏する。ファミリー向けのミニコンサートをはじめ、学生やオーケストラファンのための音楽セミナーを開催し、若い世代に音楽に親しんでもらう機会を増やしていく。各地で行うオーケストラ公演の日程とも合わせながら機動的に展開する。

(3) 福祉、被災地を応援する活動

① 聴覚障がい者の鑑賞に向けた取り組み

NHK財団と連携し、耳が不自由な方でも音を聞き取れる特殊な装置「骨伝導ヘッドホン」などの活用に継続して取り組む。2022年度にNHKホールで行った初の鑑賞会を踏まえ、NHK財団のホール部門や技術部門などと協力し、引き続き公演のリハーサルに聴覚障がい者の方々をお招きするとともに専用機器の開発に取り組んでいく。

② 福祉施設、病院、被災地への訪問

首都圏近郊のお年寄りの施設や病院を訪ね、入所者や患者、職員に向けた室内楽コンサートを行う。コロナ禍の中で訪問は減っていたが、2022年度後半から要望は徐々に増えており、様々の事情で公演に足を運べない人たちの期待に応える。「NHKこども音楽クラブ」の訪問先の中に、災害の被災地を組み入れる他、ゲームソフトメーカーと連携して福島や岩手の震災の被災地でミニコンサートを開くなど、息の長い復興支援に貢献する。

(4) 放送への貢献

① 放送への出演、テーマ曲の収録

- ・定期公演は、各回ともテレビのEテレ「クラシック音楽館」で放送。ラジオはCプログラムの1日目を生放送で、他のプログラムは、収録して後日放送する。放送

後も、「NHKプラス」「NHKオンデマンド」の見逃しサービスや「らじる★らじる」「radiko」の聞き逃しサービスで、期間限定で配信される。

- ・特別公演は、年末の「第九」を8Kスーパー・ハイビジョンで生放送、6月の「Music Tomorrow 2023」はFM「現代の音楽」で放送の予定。
- ・2024年の大河ドラマ「光る君へ」のテーマ曲など番組関連の録音にも積極的に取り組む。
- ・2024年3月の放送記念日に式典会場のNHKホールで記念の演奏を行う予定。

② 視聴者リレーションへの取り組み

- ・大河ドラマコンサートや青のオーケストラコンサートなど番組と連動した本格的な公演を東京都心で開催して放送を後押しするとともに、NHKの関係部局とも連携して視聴者活動につなげる。
- ・NHKの地域放送局が行う番組関連のトークショーや協力関係にあるケーブルテレビと連携した催しなど、様々な視聴者リレーションイベントに室内楽のメンバーを積極的に派遣する。「NHKこども音楽クラブ」を含め、各地を回りながらNHKブランドの向上に寄与する。

(5) N響アカデミー

日本のオーケストラの若手演奏家の育成を目的にしたスタートした「N響アカデミー」は、21年目となる。楽員の直接指導や実演訓練などを経て、これまで53人（2023年1月末）が巣立ち、当団を含め内外のオーケストラなどで活躍している。2021年度から設けた「指揮研究員」のコースでも、当団と共演する著名な指揮者のアシスタントとして2名が研鑽を積んでいる。2023年度も引き続き演奏と指揮の双方で有能な人材を輩出し、日本の音楽界に貢献していく。

(6) 寄付への理解促進 —リハーサル公開—

特別支援企業や賛助会員の方々から寄せられる寄付は、公益財団法人として演奏活動を続け、社会に貢献していくうえで重要な財源となっている。こうしたご支援に感謝し当団の演奏活動に理解を深めていただくため、定期公演Aプログラムの直前リハーサルにお招きし、イヤホンガイドとともに鑑賞してもらう。

4. 国際発信力を高め海外のファンを増やす

(1) 外国人旅行者、留学生に向けた取り組み

① インバウンドへの取り組み

- ・N響公式YouTubeによる演奏会動画の配信では、視聴回数の約20%が国外からのアクセスで、海外でも多くの方々楽しんでいただいている。また、国内では徐々に訪日旅行者が増え始め、とりわけNHKホールは、渋谷や原宿の観光名所に隣接し

- 、旅行者の招致にかなった環境にある。
- ・この機会を捉え、欧米で広く知られ、都内にもチケットショップを展開する販売業者と提携するなど、外国人に向けた販売網を広げる。また、訪日旅行者が多く利用するホテルのコンシェルジュを通じたプロモーションを行うなどインバウンドへの取り組みを強化する。

② 留学生の招待

日本で学ぶ留学生のご招待は、コロナ禍の中で3年間中止していたが、2023年度に再開し、定期公演にご招待する。

(2) 国際発信の強化

① 英語版チケット販売サイト

- ・海外のお客さまに向けた英語版のチケット販売サイトを開設する。これに合わせてホームページやYouTube、SNSなどに掲載される英語表記の解説、投稿をさらに充実させる。
- ・また、中国語（繁体字／簡体字）による「チケットの購入の仕方」をホームページや年間パンフレットに掲載し、国際的な認知度と販売力向上の一助とする。

② 機関誌「フィルハーモニー」

公演のプログラムや聴きどころをわかりやすく構成・編集した機関誌「フィルハーモニー」、N響公演のラインナップや事業概要を編纂した年間誌「ブローシュア」なども引き続き英語ページを掲載。国内外の多くの方々に届くようホームページなどで公開する。

③ 海外メディアの活用

イギリスを本拠とするクラシック音楽サイト「Bachtrack」をはじめ、海外メディアを通じての外国語によるN響コンサートの周知をさらに進める。

④ 国際放送

海外向けの国際放送「NHKワールド JAPAN」のN響の演奏を特集した番組、「Masterpiece Performed by NHK Symphony Orchestra」は5年目を迎え、引き続き制作に協力していく。放送された演奏は、インターネットによるライブストリーミングやオンデマンドサービスで世界各地での視聴が可能であり、国際発信によってN響のプレゼンスをさらに高めていく。

5. ガバナンスの強化と経営基盤の安定化

(1) NHK財団と連携したマネジメントの高度化

2023年4月のNHK財団との統合は、NHKグループの社会貢献事業の強化とともに

に、当団の管理部門を高度化し、内部統制や財務を堅実なものにすることを目的にしている。内部監査については、これまで外部の内部統制サービスなどを活用していたが、2023年度は、NHK財団と連携して独自の実地監査を行うなどガバナンスを強化する。財務については、円安やウクライナ紛争に伴うロシア上空の航空路の変更などで、諸経費の上昇が懸念される。公演ごとの収支の点検と業務の評価を行う管理会計の精度をより高め、経営基盤の安定化につなげる。こうした業務連携を支えるNHK財団とのシステムの統合は、2022年度に引き続き整備を進め、新たなネットワークへの円滑な移行を進める。

(2) テレワーク環境の整備と情報セキュリティーの推進

在宅や出先での効率的な業務、事務局のペーパーレス化などを見据え、テレワークに資する環境の整備をさらに推進する。2022年度は、NHK財団との統合に備えた経理システムや事務インフラの共通化、各種サーバーの新設と改修を行い、テレワークを支える基盤は整いつつある。2023年度は、これらの運用と整備に引き続き取り組むとともに、新たに各職員向けの業務用のスマートフォンやモバイルノートパソコンを配備し、テレワークの環境を整える。これに合わせて情報セキュリティーをさらに強化するための管理体制を構築し、訓練や勉強会を行いながら職員の対応力とリテラシーを高める。

(3) 効率的な業務運営と安全の確保

公演運営やサービスの改革を担う新たな要員パワーを生み出すため、既存の業務を効率化し事務局のパワーシフトを行う。広報やチケットセールス、公演会場を主体とした運営業務などを部分的にNHK財団や外部に委託し、新たなファンの開拓や社会貢献など経営課題となっている業務に振り向ける。また、部署の垣根を超えたプロジェクトチームを引き続き機動的に立ち上げ、多様化している業務に柔軟に対応していく。一方、国や自治体の新型コロナウイルス対策は、緩和の方向で見直しが進んでいる。こうした動きを注視し、業界団体のガイドラインなどに従いながら、お客さまや職員の安全安心が損なわれないよう的確に対応していく。